

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社サナス グループホーム出島
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県長崎市新地町4 - 15
記入者名 (管理者)	高島 千世
記入日	平成19年12月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		隣近所の方は無理でも、気軽に立ち寄って頂ける馴染みの方を増やしていきたい。現在、入居者の知人や同ビル内を利用された方や職員の家族・知人及び研修生などが時折訪問してくださっているので継続し、馴染みになってくださる方の訪問に声を掛けて気軽に立ち寄れる環境を整える。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	必要とされることが起きた場合は積極的に協力はしているが今までこれと云い大きな取り組みは無い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目に対して職員全員が改めて施設全体及び個々の現状を評価し意識・サービス改善に活かしている。前年度の評価指導を参考に取り組み、改善を図っている。		評価された項目・内容をしっかりと受け止め不足の部分を職員全員が認識し改善に努められるように活かしていく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動や入居者の生活状況等報告はしているが会議での意見がサービス向上に活かされているとは思えない。又、意見等も改善に繋げる事が出来る意見があまり出ていない。運営推進会議をサービスの質を向上させると云う点で活用出来ずにいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特別な事が無い限り会議以外では機会を設けていない。しかし、運営推進会議の指針や質の向上に活かせる取り組みへの助言等は常に仰いでいる。		会議以外でも指導を受ける機会を持つようにする。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在対象者は居ないが、必要性がある入居者に対して支援をしてきた実績があり研修等に参加し学んでいる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、虐待防止の意識を高め施設内の勉強会や会議等で議題として取り上げて、事業所内での虐待が行なわれないように各自が注意を払っている。		小さな事にも目を向け虐待の対象にならないか評価する機会を作る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	見学・申し込み時や契約の前に面接(調査)を行い、十分な時間を取り納得していただける説明が出来るようにしている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	外部者に対しては特別入居者が訴える機会等は無いに等しい。けれど、何でも思うことを言えるような雰囲気や意見を聞く機会を作るようにしている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族会や面会又ケアプランの説明を行う時を利用して行っている。又、必要がある場合はTEL・書面を通して報告している。(日常生活の中で心身の変化がある場合は特に時間を置かず連絡を取り、状況および対応の報告をしている)		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会の時時間を設けて意見を頂けるように努めている。又、皆様の前では言いにくいと言われる方には面会の機会を利用して意見を伺っている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員の意見や提案を求める機会(会議・個別)を持ち反映されるように心掛けている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	家族に協力を仰ぎながら、勤務変更や時間調整を行ない出来る限り要望に沿うようにしている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	異動等は1ユニットにより行なわれていないが、研修や実習生等の参加がある時は馴染みの管理者や職員と一緒に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ビル内に通所介護施設があり合同研修の場を設けたり、勉強会等を開催したりして研修会の参加を促している。また、管理者や経験及び技術の高い職員には、現場での実践を通しての指導等で育成に当らせている。</p>	<p>職員の質を向上させるべく、意欲を持って管理者は指導に当たっている。施設内外での研修等に参加を促し、職員全員が意識を高く持ちレベルアップを図る。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>長崎市グループホーム連絡協議会に属し、同協議会の研修に管理者・介護職員共に積極的に参加している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>特別に対策は行っていないがそれぞれに、解消する法を心得ており解消をしている。しかし、周囲の職員がサポートし、管理者が傾聴・スーパーバイザー的役割を務めるようにしている。尚、管理者のストレス軽減については、運営者に直截訴えることが出来る環境を作っている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の勤務状況や実績の把握に努め、評価を出しその評価に対して給料に反映させている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者が認知症と云うことで、理解力が乏しい方にはご家族の意見や要望をお聴きして、望まれる暮らしにより近い支援がなせるようにしている。また、ご本人からの声を大切に受け止めて不安を取り除く努力を行なっている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の意見をよく聴く機会を多く持ち、時間をかけながら安心し納得して頂いての入居に至るようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に至るまでの経緯や状況又、ご家族及び利用者の意見を良く聴き助言や社会資源の紹介は行なっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族に協力を得ながら行なったり、その方の生活歴を参考にしながら馴染める環境作りに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も含め、皆家族と云う思いで生活を共にしている。生活の知恵を教わったり、昔ながらのしきたり等会話の中から勉強させていただくことがあり会話が弾むことが多い。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と同じ思いで入居者に接しており、それぞれの状況で共に喜び共に悲しみ信頼関係を深いものに築いていくようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係をより良いものとなるように、事情を把握し理解した上で支援していくようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際や目的を持ってその場所にお連れしたり、関係が絶たれない様に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個人観察をよく行い、入居者同士の関係を把握して適切に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご利用を頂いた家族や利用者との関係は継続して行きたいと思っているし、している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見を伺い何を望まれているか引き出し、ケアプランに反映させ、可能な限り入居者本位に繋がるように意識して取り組んでいる。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の調査書類等を参考に職員全員が情報を共有しました、家族知人等から情報を頂いたりして支援に活かしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に健康状態は勿論のこと、精神面に置いても観察を怠ることなく、日々の現状を把握し、情報の伝達及び医療機関への報告相談は密に行なっている。又、その日の能力に合わせた対応を行なっている。		
。				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	医師等に参加して頂いてケア・カンファレンスやミニカンファレンス等随時行ない、介護計画に反映させている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に合わせ、その時点でミニカンファレンスを行い経過を見ながら評価を出している。又、家族や関係者等の意見が必要な場合は求めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	週間モニタリング表を作成し評価に活かし見直しにも活かしているが、まだまだ完全に活かされてない様である。		記録の内容及びモニタリングをしっかり行なえるように研修を重ねる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟な支援が出来ているかは判断しがたい。しかし、家族や本人の要望には極力希望が叶えられるような支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	特に必要とすることが現在は無いため行っていない。消防の方には防災訓練等での情報提供や指導をお願いすることはある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望や必要があれば他サービスを利用できるように支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、対象になるような事例がなく協働することがない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携医院の協力や必要があれば紹介状にて専門の医師の受診等家族・本人の希望も踏まえて行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の診断をされたかかりつけ医師に相談を行なっている。症状の変化が見られ受診が必要と思われたときは適切な対応ができるようにしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	建物のIFが医療連携医院になっていることから、連携がうまくなされており支援して頂いている。少しの変化も報告し即対応している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院内の地域連携室と情報を交換したり相談を行ったりしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応の指針・ターミナルケアにおける同意書等に同意を求め、ケアや対応についての方針が確定されるように終末期を迎えられたと判断された場合、家族や医療機関を交えより具体的なプランを作成し全職員で家族を含めた支援を提供することになっている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	体勢を整えることが出来るように取り組んでいる。(現在、終末期を迎えつつある入居者に対して、準備を行なっているところである)		ターミナルケアの経験を元に、前回のターミナルケアで改善すべき点を検討し活かせるように検討会を持つ。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の意向で決定されることが多く、退所先も事前に決定されていることが多い。しかし、そうでない場合は情報を提供したり、相談に乗る等の支援を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーや個人情報には十分注意を払った取り扱い及び対応をしていると思われる。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの能力に合わせ、自己決定がなされるようにしている。決定が出来るような働き掛けをしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活リズムがありその方のリズムに合わせた支援をしている。しかし、職員体勢が整っていない時に外出を希望された場合は説明をし、外出が提供できる時間まで待つて頂いて提供したりしている。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望を受け入れた支援をしている。4名の方がそれぞれの美容室を利用されており、ご家族の付き添いもある。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々の好みを把握し食卓に並べるようにしている。当日の献立の希望を尋ね提供したり、誕生会等は誕生者のお好きなものを多く取り入れた献立にしている。また、季節感を出すために旬の物を食材に使用する工夫をしている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個別で要望があるときや提供する際希望をお聞きしたりして提供している。おやつ等は買出しに行き好きなものを選んで購入する支援を行なっている。アルコール類の提供も望まれるとき体調を見ながら提供している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて管理し、リズム・パターンを把握し随時トイレ誘導を行ないながら失禁を防ぎ出来る限り排泄はトイレで行なえるように支援している。歩行が不可能な方もトイレを利用して頂いて、パンツと尿パットの組み合わせで支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を固定させることで職員の動員が可能なため入浴日を指定させて頂いている。しかし、特別な理由で入浴日でない日も希望があれば利用させて頂いている。時間帯は声掛けにより本人の希望を優先した支援をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	早い時間から休まれる方・夜更かしをされる方又不眠で夜の行動が活発な方などお一人ひとりに合わせ飲み物を提供したり、添い寝をしたりと安眠されるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意とするところが発揮されるように能力に合わせた役割を持つ事で張り合いに繋がるようにしている。手芸・書道・お買い物など楽しまれている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金としてお持ちになりたい方や必要時に現金の使用を望まれるときは適宜に対応し支援している。支払いなど付き添いながら本人にして頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・地域での行事等又月に1度は外出を提供し、個別の対応も行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブや行楽行事など提供している。個別でも機会を作り近辺であれば職員が対応し遠方であれば家族の協力を得て食事会・外泊・馴染みの場所などへ出掛けられている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は職員がダイヤルして差し上げることや暑中見舞い・年賀状などペンを走らせることが可能な方には声掛けし支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会や訪問の頻度は少ないが来て頂いている。次回の訪問など声掛けさせて頂き足が気軽に運べるように対応や雰囲気作り心掛けてしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し職員に伝達している。一つの行為が拘束にならないか、意見交換をするようにしている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の玄関や非常階段等の鍵はかけているが、昼間や居室の鍵はかけていない。鍵をかけないことを認識した支援をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	転倒リスクの高い高齢者であることから、常に目を離さず姿を確認している。また、入居者全員の所在把握を行なうことを徹底している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	以前は刃物を取り出し振り回されたり薬剤等の管理が必要な方がいて、目の届かないところに保管したりしていたが、現在はその心配も無い入居者の方たちであるため、極自然に目に触れたり、扱って頂いている。その為、常に危険性がないかの観察を行ないながらしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成し、事故防止に取り組んでいる。また、ケアカンファレンス等で意見を出し合い職員全員が入居者の身体状況の把握及び共有に勤めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていない。しかし、起こりうる状況や今後予測される場合には事前に指導がなされている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	居住地が主に住宅地と云うよりも商業地帯なため、関わりが少ない。一応、建物の両隣がガソリンスタンドであることから口頭で災害時の協力をお願いしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所される前の面接や契約を締結させる時また、機会がある度に説明を行い意見を聴きより良い生活が営めるように話し合う機会を作っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に身体の変化は勿論のこと精神面に関しても日々の観察を行い医療機関の協力を得ながら早期に対応を行なっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬と共に添付された説明書に目を通し、副作用の作用を認識させている。また、体調に異変を感じたら再度確認し医療機関に連絡し指示を受け対応している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し食物・運動にて提供し、食材や献立の工夫をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実践し口腔衛生グッズを個別に用意して、個別に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患等を踏まえ、摂取能力に応じた提供を行なっている。食事形態もその日の身体状況に合わせて提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、予防や対応が適切に行なえるようにしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具・食器・布巾等の乾燥や消毒を毎回実施し手指消毒を励行している。食品等も新鮮な物を当日調達し、野菜等2～3日で使い切ってしまうようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1F玄関入口は他事業所との共有であり、1Fが医院となっている為ご家族や知人及び関係者以外は気軽に入れる雰囲気ではないと思われる。しかし、ポスター等を使って玄関から足を踏み入れたときグループホームへの案内表示にて取り組みたい。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	春には桜、夏には風鈴・あさがお等季節感が伺えるようにしている。共用する場所は特に温かさが感じられ心地よく過ごして頂けるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特別に場所を提供していないが、共用空間の中でそれぞれ自由に過ごされている。お一人でテレビを観られていたり、音楽を聴かれたり又、数名の方たちで書道や手芸などを楽しまれたり談話されている姿が見られている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家具や身の周りのものをご用意いただく際、馴染みのある物や今まで使用されていた物を持参されることを進めており、家具等の設置もご本人の好まれるように設置して頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみが無いよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	お部屋の異質なおにおいや空気のおよみが無いように換気及び消臭効果のあるものを使用しており、空調の管理も季節や入居者の状態を観察しながら行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造に合わせた中で個々の能力に応じた生活が安全に営まれるように問題が生じた時点で改善を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の能力を把握し、失敗があっても本人の負担や不穏とならないように支援しながら、その能力が維持されるような支援に努めている。		個々の能力を活かす支援に取り組み、維持継続されるように介護計画書の作成と共に技術の向上に努める。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇を作り、季節の植物を育てて頂いている。又ミニ菜園で収穫した物を食材に用いている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者第一と考え、ご家族様や入居者様にはもちろん安心して暮らして頂ける様に職員との信頼関係を結びながら援助させていただいています。特に後期高齢者と云う状況から、健康管理に充分注意を払い些細な変化も見逃さないように観察し医療機関との連携を徹底し、健康面及び日常生活の支援に努めています。入居者お一人おひとりがお元気で自立した日常生活を送ることが出来るように、私たち(出島)は尊厳を持って安心とやすらぎのある暮らしを支援しております。動けなくなっても寝たきりにさせないで、ご家族やご本人様のご希望であれば最後のその時(終末)までその人らしく過ごして頂けるようにターミナルケアの取り組みを行い、ケアを受けられたご家族から感謝の言葉を頂いたことも有ります。

また、職員の質の向上が事業所の質の向上に繋がるべく職員の育成には力を入れています。それが強いては入居者様への質の高いサービス提供及び支援に繋がるものと考えております。